

きずなカードを読んで

北見赤十字病院 総務課長 鈴木真一

北見赤十字病院の明日を考え支援する会の皆様、日頃、当院の運営並びに赤十字事業に対しご理解、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。

先日、「きずなカード」を読ませていただきました。近況報告や、早く新型コロナウイルスが終結して皆で会いたい等、会員皆様のおかげが垣間見え、微笑ましくなりました。明けない夜はありません。新型コロナウイルスもワクチン、飲み薬等で必ずカゼ程度になる日が来ます。その際にはまた当院にいらしていただき、いろいろな情報交換を行いたいと思います。話しは変わって病院の最近の動きです

が、11月5日、北見市立南中学校の生徒さんからモザイクアートの寄付を受けました。当院職員に向け「危険な仕事にあたり、私たちの命を守ってくれありがとう」という感謝のメッセージを生徒総勢318名が折り紙に書き、それらをきれいにデザインしモザイクアートに仕上げたものです。遠くから見ると「ありがとう」という文字と「両手にハート」という絵が現れます。これに勇気ももらいこれからも新型コロナウイルス対応をしっかり行って参りたいと思います。ただ今、当院のアトリウムに飾る計画をたてているところです。

更には変わって、

当院は常に職員募集を行っています。特に困っている職種は医師、看護師、薬剤師、言語聴覚士、保育士がなかなか定



員に達しません。皆様の周りで心当たりがあれば是非お声かけいただき、当院のホームページをご覧になったらと思います。皆さまとお会いできる日を心待ちにしております。今後とも当院をよろしく願いたします。

ホワイトイルミネーション

北見赤十字病院前光の華

北見赤十字病院前の小公園を発光ダイオード(LED)ライトで彩る「がんばろう北見！」応援ホワイトイルミネーションが点灯。日々奮闘している病院の役職員の皆さんに感謝の気持ちを伝えようと幻想的な光の華は来年1月末日まで輝き続ける。



本誌の直前号・25号の発行が令和元年12月23日であった。本号の発行までコロナ渦のため2年間ほど休刊していた。その間、当会の活動自粛の日々が続いている。

2回目ワクチン接種がほとんど完了して、3回目接種の具休策がようやく国から発表され、そろりと本誌の発行を試行した。

今回、本誌の一面は「特定行為研修」の特集です。北見赤十字病院・看護部副部長の日高さんに多忙の中、取材のご協力を戴きました。本欄を借りて厚くお礼を申しあげます。何かと気ぜわしい師走です。手洗いやうがい、マスクの着用、3密回避などを励行して、良き新年をお迎え下さい。(逢坂)

